

平成 22 年度朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成 22 年 6 月 30 日（水）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

## 平成 22 年度朝日地域審議会 会議録

日 時：平成 22 年 6 月 30 日（水） 9 時 30 分から 12 時 00 分まで

会 場：鶴岡市朝日庁舎 4 階 大会議室

出席者：敬称略

（委員）佐藤正、齋藤健一、松本壽太、伊藤文一、佐藤照子、宮崎康史、齋藤亮一、佐藤芳彌、  
清野義次、大滝清策、帯刀春男、井上時夫、佐藤世津子、今野めぐみ、難波庄一、菅原和則  
（20 名中 16 名出席）

（市側【庁舎】）朝日庁舎支所長、各課課長・主幹、総務課職員

（市側【本所】）副市長、企画部長、農林水産部次長、企画部地域振興課地域活性化推進室長、  
総務部調整課課長補佐、地域活性化推進室職員

- 辞令交付 -

1. 開 会

2. あいさつ 副市長

3. 会長・副会長の選出 委員の互選により、会 長 佐藤芳彌  
副会長 佐藤照子 を選出  
会長が議長となり進行

4. 委員紹介

5. 説 明 地域審議会の概要について（資料 2 ページ～5 ページ） 総務課長が説明

6. 報 告

（1）平成 22 年度予算及び主な事業の概要について（資料 6 ページ～25 ページ） 総務課長が説明

### 【質疑応答】

Q 質問（佐藤正）

支えあう地域防災力調査研究事業について、防犯組織のあり方という表現をしているが、自主防災組織の見直しなのか、また外部委託するのか、いつまでまとめるか等、説明して欲しい。

市消防団活動協力員について、今年度の駐在員会議でも 5 名の委嘱を予定している旨報告があった。小さい集落では以前から心配の声が上がっており、大変いい試みだと思うが、今年度まで説明がなかったように思う。取り組みについて教えて欲しい。

かたくり温泉ぼんぼの入館者について、ここ毎年 10 数%減少しているようである。これは料金の値上げやゴールドパスの値上げ等が要因と思っているが、市内で設置している 4 箇所でも朝日地域はハンディのある地域であると考えている。遠距離、第 3 セクターでなく直営であること等の要因が大きいのではないかと考えているが、市内他 3 温泉施設の入館者の状況と今後の対策について説明して欲しい。

みどり募金について、2 年位前に質問しており再度質問する。いわゆる税外負担の軽減に取り組んでいるが、100 円程度だと自治会の会計から一括支出が多いかと思うが、自治会で扱うと半強制的な集金となってしまふ。趣旨は厳密に言うとは違ふかも知れないが 19 年度から県のみどり環境税（税額 1,000 円）が導入されており、住民から見ればみどり環境税が 1,100 円になったのと同じではないかとも取れる訳であり、他地域での収納状況、あるいは集まった金額等わかれば教えて欲しい。

A 回答（総務課長）

報告（２）で説明する予定で、資料の 28 ページに記載されているが、今年度いろいろな事業を展開する中で職員がそれぞれの地域に出向き、住民と協働しながら調査研究を行う趣旨で実施する。外部に委託することはない。職員が直接的に関わって調査研究を進めていく。なおかつ自主防災組織については、住民と一緒により良い方向性をその中で検討していきたい。

昨年度の反省として、年度の途中から制度活用の取り組みが始まったため、各自治会への周知に若干問題があったと考えている。消防団幹部会等での説明はしているが、自治会には具体的な説明が足りなかったという反省もあり、来年度は周知を徹底したい。

A 回答（市民福祉課長）

他施設の状況について詳しい資料は手元にないが、会議等の報告ではどの施設も全般的に減少傾向にあるようだ。ぼんぼは、食堂が無い、規模が小さい等、色々な部分でハンデがあり、他地域の温泉施設とは違う。それぞれが自立を目指して経営改善をしながら今現在対応している状況である。ぼんぼは当初より健康づくりを目的としており、特にこれからの考え方として、高齢者、婦人層の健康づくりのための対応に力を入れていきたい。他の温泉施設とサービスの面で対抗しても難しいものもあり、今後も健康づくりをひとつの顔として経営を行いたいと考えている。

A 回答（農林課長）

質問のあったとおり、今年度も先般お願いしている状況である。この募金は森林保全のボランティア活動の資金に充てる等、森林環境を守る募金としてお願いしている。以前も質問を受けており、県とも協議したが、駐在員会議でも説明したとおりあくまでも協力という形をお願いしたいと考えている。また、再度県とも協議を進めていきたい。募金金額については 20 万円弱と記憶しているが、詳細については何らかの機会を通じて報告をさせていただきたい。

Q 質問（佐藤正）

について、協力のお願であれば、みどり募金は袋募金などにすべきではと考えるがどうか。

A 回答（農林課長）

再度検討して、皆さんに後日検討結果を報告したい。

Q 質問（伊藤文一）

森林文化都市構想について、前富塚市長、榎本市長を始め、議会議員の方も森林文化都市について言われているようであるが、内容があまり我々には伝わってこないようであり、この予算の中でどの部分が森林文化都市構想を目指した事業なのか、わかれば教えて欲しい。

A 回答（総務課長）

事前配布資料の市予算特集号 5 ページ中段以降の記載を参照いただきたい。庁舎の主要事業では、グリーンアドベンチャー事業、鶴岡森の保育事業、森林環境教育推進事業が、朝日地域と関連する事業である。さらには、朝日地域の主要事業の中でも、六十里越街道活用事業補助金、六十里越街道山岳トイレ管理事業などがそれぞれの事業にあたる。なお、森林文化都市構想に関する事業としてはソフト事業が中心となるため、主要事業一覧に掲載されていないが実施されているものがある。

A 回答（副市長）

森林文化都市の理念だけを言うと難しいが、基本的に森林文化都市構想は林業の振興、トレッキング、散策などの健康づくり、そしてボランティアも含めての森づくり（小学生の「緑の少年団」、新聞等で話題になる皆なで森林を守る活動の「魚の森」など）、それらの環境作りを総称して森林文化都市と言われている。

林業の振興も一つの柱だと考えており、特に森林組合への補助として、色々な設備投資に対して市として単独の補助金の上乗せを行っている。また、地域木材を積極的に使う取り組みを行っており、資源の循環として学校施設には90%以上地域木材を使うという仕組みを取っている。来年度からは民間の住宅まで地元木材を使うような仕組みを促進し、行政も含め住民が森林を大事にしていく事を理念として、森林を活用しながら保全するという考えである。その取り組みはなかなか見えないが、総合して森林文化都市の推進に繋がるものである。

Q 質問（井上時夫）

高度情報通信基盤施設整備事業について、既存情報無線の破損についても老朽化により修理対応できない状態が続いていたが、今年度予定の音声告知事業はいつ頃事業実施されるのか。

旧村時代から行われていた林道敷砂利補助事業の予算が削減されている。どの集落でも評判のいい事業で住民の要望も多いため、もっと予算を増額できないか。

A 回答（総務課長）

既存防災無線については住民にご迷惑を掛けてきたところだが、ようやく実施できる運びとなった。現在実施設計中であり、まだはっきりと実施時期をお知らせできる段階にないが、タワー設備は降雪前に工事を完了したい。また音声端末については住宅内に設置することから、降雪後でも可能であり、開始の時期等については、明らかになり次第お知らせしたい。

A 回答（農林課長）

毎年7月に農道と林道の敷砂利要望の取りまとめを行っており、今年度分についても間もなく集落のからの要望取りまとめを行う予定である。敷砂利については要望が多いことも認識しているが、予算が圧縮されているため、農林課で検討しながら配分をしているとことである。厳しい予算の中でも実態を訴えながら予算枠の拡大も目指していくが、地域の中でも計画的な敷砂利を進めてもらいたい。

（2）地域課題調査等の取り組みについて（26ページ～34ページ） 総務課長が説明

## 7. 協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて(35ページ~36ページ)

(議長)

これまでの説明、報告への質問・意見も含め、出席の全委員からの提言等をいただきたい。

(清野義次)

自治会の役員のなり手が不足し、各集落で頭を悩ませ、問題となっている。例えば、数集落で集まり代表を立てる、その他は連絡等のみ行う、あるいは今までどおりに進めるのか、それぞれの団体役員のなり手がいないという中で具体的な話はこれから進めるわけだが、行政として取り上げてもらいたい。また、ナラ枯れの問題についてだが、特に六十里越街道ではナラ枯れが多く危険な状態である。根こそぎ枯れている部分もあり、それら危険木の処理計画があればいつ頃になるか教えて欲しい。

(大滝清策)

大鳥は限界集落と前から言われており、地域活性化のためタキタロウ村が発足した。現在187名が村民となっており、他地域から村民を入れて地域を作っていくという対応をしているが、地域の人から参加してもらおう、そのことにより地域がまとまるという事でいろいろな取り組みを行っている。集落営農に取り組んでいるが、これからも継続していきたいし、将来的には法人化を目指していきたい。また、地域住民の高齢化の社会により、労働力の低下が問題となっており、将来に向けて高齢者の支援事業として人材派遣があればいいと考えている。

(帯刀春男)

小さい規模の集落では住民の高齢化が進み、若い人たちが少ない中、就業の違い、時間帯の違いによる地域の中の問題が出てきた。その中でどうコミュニティや地域の中の親睦を図っていくか、地域に住む意味、価値観を共有していくかが今後一つの課題と考えている。また、サルによる農作物被害により生産意欲はおろか、その地域に生活する意欲までそがれてしまうことも考えられ、その地域で生活する意味が無くなってしまう。鳥獣との共生と必要かとは思いますが、住民としては厳しい状況があり、居住環境の中では大事な要素だと考える。まして高齢化が進めば進むほど、農業を楽しみにする住民も多くその楽しみが侵されることとなり、住む意味を失ってしまう重大な危機と考えている。課題を一つ一つ解決していく必要がある。

(井上時夫)

子供たちが卒業後地元を離れ、父母が高齢化すると子供と同居するため転出することが多かったが、最近では子供が遠距離で就職した等の事情から、高齢者だけの世帯が増えている。また、世帯数も減少している。農業を行うにしても人が多ければ水路等の管理も容易であったのが、1人欠け2人欠けという状況の中で、農地の耕作よりも維持管理の困難さから耕作放棄地が出てきている。中山間直接支払い等で草刈等の維持管理は行っているが、この制度がなくなればさらに荒廃が進むのではないか。また、未婚者も増加しており、結果として子供が少なくなっているため、以前からあった清掃活動等への参加者が減少し取り止めた活動もある。結婚対策としての仲介も減り、いわゆる出会いの場が少なくなったことも未婚率増加の要因だと思う。

(佐藤世津子)

少子化・高齢化が進む現状を目のあたりにし、子供の遊び場が地域内に不足している気がする。そのため地域外に親子で遊びに行き、地元、地域で遊ぶ人が非常に少ないようである。親子で楽しめるような総合施設の整備をすべきではないかと思う。また、高齢化が進む中、健康の問題が大きな課題になると思う。様々な健康づくりに関する事業も行っているが、限られた関心のある人だけしか参加しないようである。健康で長生きすることが大切であり、関心のない人にももっと健康づくりを推進させるためにも、地域にもっと入って指導してくれる人材の育成が必要ではないかと思う。

(今野めぐみ)

スポーツ少年団活動でスポーツセンターの体育館をよく利用するが、施設の老朽化も進み修繕、補修すべきところが目立つので、早期に修繕してほしい。自治会内の自主防災組織の運営について、いろいろな役職や班があるが、実際災害が起きた時に具体的にどのような事をすればよいか分からない。役職や班の仕事の内容や、災害時の訓練などをもっと充実させたほうがよい。

(難波庄一)

山や川、自然があるから市街地もよい影響を受けているという事を市街地に住んでいる人たちにももっと周知してほしい。中山間地域の重要性をもっと認識し、予算を充実してほしい。

(菅原和則)

人口が減少するに伴い、昔からある地域の伝統芸能の継承も困難になってくることが考えられる。U・Iターン者の受け入れ策など、もっと積極的に行ったほうがよい。また、スポーツ施設の地元住民の利用率が低いようであるが、住民の健康づくりのためのスポーツ施設の有効利用する対策を講ずるべきである。

(齋藤亮一)

民生委員のなり手がいないなど、地域役員のなり手が非常に減少しており問題である。また、朝日地域など中山間地域は、集落の役員のなり手不足や、降雪量が市街地と比べ非常に多い等の問題があるが、市街地の住民には中山間地域の問題などが分からず、同じ市民なのに感覚にずれがある。

(宮崎康史)

消防朝日方面隊では団員の定員割れをしている班が多く、以前にも分団を再編しているが、さらに人口減少が進み、再度再編しなければ組織として維持できない状況である。集落も同じで、再編しないと集落機能を維持できない状況まで来ているのではないかと考えている。

(佐藤照子)

高速道路無料化となったが、湯殿山ICや庄内あさひICに地域の観光案内表示などが少ないため、高速を降りず素通りされている。もっと朝日地域や112号沿線に観光などの魅力を伝えられる表示を高速を降りたすぐのところに整備すべきである。併せて観光パンフレットを高速利用者へ配布するなどして、もっと朝日に観光客を呼ぶ工夫をすべきである。

(松本壽太)

もっと活力のある地域づくりを。地域審議会の委員の意見ももっと明るいものになるよう、がんばってもらいたい。

(齋藤健一)

朝日地域の特色や多様性を活かした振興策を講じてほしい。山ぶどうなど特色ある作物もあるので、今以上に振興策を充実させるべきと考える。

(佐藤正)

鱒淵集落はもうコミュニティの維持が限界にきており、もう数年もたない状況である。テーマに掲げられているような対策をぜひ進めてほしい。

(伊藤文一)

森林文化都市という構想があるならば、やはり山、森林を積極的に活用すべきである。山に入る人や山菜採りを楽しむ人が増えるよう、たとえば薪ストーブ利用を促進したりするなど対策を行ったほうがよい。

A 回答(農林課長)

(清野義次委員からのナラ枯れした危険木の対策について)

六十里越街道沿線のナラ枯危険木の伐採を森林組合に委託し、作業を行う準備を進めている。

(佐藤芳彌)

地域審議会後に市長も含めて懇親の場を設けるべきである。地域の自然や農林業、集落活動、消防団活動、少子化など、自然や人の命、価値観、生きがいをどうやって守っていくかが重要な問題である。

(追加資料) 地域審議会の進め方について

第2回以降、2つの分科会に別れて協議検討を行うことを確認した

(2) その他

8 閉 会

(閉会后、鶴岡まちづくり塾報告会を開催)